



■国内概況まとめ

【自動車】

【自動車生産】

生産動態統計によると7月の自動車生産台数は前年比-4.5%の65万7,940台。

輸出は前年同月比-5.1%の33万1,959台。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると8月の自動車販売台数(軽除く)は前年比-13.3%の17万9,075台。

内訳は乗用車が-13.1%、貨物が-20.2%、バスは-19.2%。

【住宅着工戸数】

7月の新設住宅着工は、貸家は増加したが、持家及び分譲住宅が減少したため、全体で前年同月比5.4%の減少となった。また、季節調整済年率換算値では前月比2.4%の減少となった。

【伸銅品生産】

銅糸は、前年同月比5ヶ月連続のプラス。伸び率も二けたパーセントまで上がっているが、それでも上海での部品生産の遅れから部品不足が続き、設備投資関連などへの需要が伸びて来ない。電力向けブスバーが緩やかな回復基調を続けている。

黄銅棒は、同比7ヶ月連続マイナスで、マイナス幅が拡大した。住宅設備機器関連はリフォーム向けを中心に緩やかに回復基調続く。ガス機器は、部品不足の問題が解消し、需要回復してきた。ただ、上海ロックダウンの解消後も中国家電向けについて調子が戻ってこない、会員企業からの情報がある。

【見通し】

【自動車】

7月の自動車生産が-4.5%。8月国内販売台数が前年比-5.1%。8カ月連続生産、販売共に大幅減少。

長引く世界的な半導体不足や新型コロナウイルスの感染拡大による影響や工場や一部仕入先での感染者発生、豪雨被害などによる部品供給遅延も影響しており来月も回復は難しい。

【伸銅品生産】

7月伸銅品生産量は6万4,030トン、前年同月比2.9%減少した。7か月連続のマイナスとなった。それでも引き続きマイナス幅が小さく、昨年並みの生産量を継続している。伸銅品の需要は、引き続き半導体向けを中心に好調をけん引している。しかし、上海のロックダウンの影響が解消された後も、中国国内の生産や物流の混乱の影響を引きずっている。

自動車向けの需要だが、各品目とも会員企業よりこれまでの在庫積み上げが完了したとの情報が入ってきている。自動車の部品在庫の積み上げが進んだため減少が始まるか？

【電線】

前年比-4.7%の5万2,300t。内訳は国内-4.9%輸出が+0.5%。輸出の伸びが鈍化。今後マイナスに転ずるか可能性も。

【鋼輸入】

財務省の貿易統計によると、2022年7月の日本からの鋼スクラップ輸出量は2万6,548トンだった。前月は、8か月ぶりの3万トンを超えたが、再び2万トン台に戻した。しかし、前年同月比11.4%増加し、13ヶ月ぶりに前年同月実績を上回った。

鋼スクラップの主要な輸出先全てにおいて、昨年より輸出量を大きく減らしている。例えば、マレーシアや香港向けが5割減、タイや韓国向けが3割減、台湾向けに至っては7割減である。しかし、そうした中、日本からの鋼スクラップの最大輸出先である中国向けだけは、ほぼ昨年並みの数パーセントの微減に留まっている。

【スクラップ景況予想】

流通【一次問屋】在庫は今月銅建値が111万から117万と高値安定だった。

前月に続きコロナによる生産減からのスクラップ発生減により出物が無く在庫薄。

需要面に関して上海ロックダウンによる中国の部品調達の遅れからの自動車生産、販売の大幅減少傾向があるが伸銅品に関しては一部品目でリモートワーク需要減による需要減はあるもの全体としては旺盛。

自動車関連向け製品の在庫積み上げが完了したとの報告もありやや需給が緩む可能性あり。

【LME・為替予想】

今月は以下の項目に左右される。①米欧の金融政策 ②中国のコロナ対策(ロックダウン)の動向

①に関しては、米国に関して引き締め一辺倒であったFRBだがここにして米金融当局による政策の引き締め度合いに関する織り込みが後退9月に関しては若干利上げ幅が後退するのではないかと。ECB(欧州)も8月のユーロ圏消費者物価指数(HICP)速報値は前年比上昇率が9.1%と、前月の8.9%から加速し、前月に続いて過去最高を更新した。市場予想(9.0%)も上回ったことから0.75%の利上げをするのではないかと。

②に関しては、9月1日に四川省成都市(人口約2100万人)に新たに新たにロックダウンを行うと発表延長するとともに、4日から大規模コロナ検査の追加実施。

これらを踏まえた9月の銅価格は7,000-8,500ドル(セツル)との予想。

ドル円値は135円~145円(TTM)台を予測。銅建値に関しては99万-127万円程度と予測している。

(「8月の銅の概況及び9月の見通し」おわり)